

くま の ふで
熊野の筆づくり



文と絵 くまのの絵本作り隊



くまのちょう ふで ぜんこくてき ゆうめい
熊野町の筆づくりは、全国的に有名です。

くまのちょう ふで ひつよう
しかし、熊野町には、筆づくりに必要な

どうぶつ け たけ
動物の毛や竹がありません。



くまのちょう ふで
それなのに、どうして、熊野町の筆づくりは

ゆうめい
有名になったのでしょうか。

むかしむかし、

くまのひと
熊野の人たちは、
のうぎょう
農業をして暮らしていました。



のうぎょう
農業だけでは
じゅうぶん
十分なかせぎになりません。

そこで、^{のうぎょう}農業がひまな^{とき}時に
^{いま}今の^{ならけん}奈良県や^{わかやまけん}和歌山県などに
^で出かせぎに^い行く^{ひと}人がいました。



かせいだお^{かね}金で、^{なら}奈良や^{おおさか}大阪、
^{いま}今の^{ひょうごけん}兵庫県の^{ありま}有馬の^{ふで}筆や^{すみ}墨を買って
それを^う売りながら、^{なんにち}何日も^{ある}歩いて
^{くまの}熊野に^{かえ}帰ってきました。



これが、^{くまの}熊野と^{ふで}筆の^{はじ}つながりの始まりです。

で 出かせぎに 行った 人の なかに、

さ さ き た め じ ひと
佐々木為次という人がいました。

た め じ ひと
為次さんは、出かせぎ先で

ふ で き ょう み
筆に興味をもちました。

ふ で
そこで、筆づくりが

す す あり ま い
進んでいた有馬に行き、

ふ で いっし ょう けん めい ま な
筆づくりを一生懸命に学びました。



ねんかんふで まな ささきためじ
4年間筆づくりを学んで、佐々木為次さんは
くまのかえ
熊野に帰ってきました。

はたけしごと とき
「畑仕事がひまな時に

ふで つく う
筆を作って売れば、かせぎになるのう。

ちょっとは暮らしも楽になろうけえ、

みんなに筆の作り方を伝えられたらええのう。」

ささきためじ くまのひと
佐々木為次さんは熊野の人たちに

ふで おし かんが
筆づくりを教えたいと考えました。



また、^{いのうえ じ へい}井上治平^{ひと}という人も

^{ふで}筆づくり^{まな}を^{おも}学びたいと思い、

^{ひろしまはん}広島藩^{しごと}で仕事^{ふでし}をしていた筆司に

^{ふで}筆づくり^{ほうほう}の方法を

^{おし}教えてもらいました。



いのうえ じへい
井上治平さんも、

さ さ き た め じ お な
佐々木為次さんと同じように

とてもやさしい人ひとでした。



おな おとまるつね た ひと
同じころ、乙丸常太という人は、

ためじ ありま ふで まな
「為次さんが有馬で筆づくりを学んできた」

はなし き おも
という話を聞いて思いました。

ためじ
「わしも、為次さんみたいに

ふで なる
筆づくりを習うてきて、

くまの ひと おし
熊野の人に教えちゃげたいのう。」



そこで、乙丸常太さんおとまるつね たも有馬ありまに行き、

筆づくりふでの技術ぎじゆつを身みに付けて

熊野くまのに帰かえってきました。





さ さ き た め じ
佐々木為次さんも

い の う え じ へ い
井上治平さんも

お と ま る つ ね た
乙丸常太さんも

く ま の か え
熊野に帰ってから、

た く さ ん の 人 に 筆 づ く り の
ひと ふ で

ほう ほう お し
方法を教えました。

^{ふで}「筆のつくりかたをあんたにも^{おし}教えちゃぎょう。」

^{むずか}「難しそうだけど、わしにもできるかのう。」

「あんたなら、できるよのう。」



^{ふで}筆づくりの方法を習った人たちも、その方法^{ほうほう}を

^{ほか}他の人^{ひと}にどんどん^{つた}伝えていきました。

こうして、^{くまの}熊野の^{ふで}筆づくりは、だんだんさかんになりました。

^{くまの}熊野の人たちの^{ひと}努力^{どりょく}によって、^{くまの}熊野の^{ふで}筆づくりは^{いま}今の^{よう}ように

^{ゆうめい}有名^なになったのです。

